

成26年1月～平成28年3月)であり、この支援を受けた結果、論文総数平成25年度(補助事業開始前)49件に対し平成26年度52件、27年度63件と補助者配置による研究環境の改善を認める結果が得られた。その他、著書件数、特許出願数、特許登録数、外部研究資金獲得件数、受賞数等についても同様の結果が得られたので、詳細について報告する。

P2-36.

「女性研究者研究活動支援事業」成果総括報告

(医師・学生・研究者支援センター)

○持田 澄子、須藤カツ子、天野 栄子
花田 尊子、宮川 香織、大久保ゆかり

(医学総合研究所)

中島 利博、荒谷 聡子

(小児科)

柏木 保代

(看護学科)

吉岡 京子

(腎臓内科)

長井 美穂

(呼吸器外科・甲状腺外科)

矢野由希子

(人体病理学)

原 由紀子

(分子病理学)

真村 瑞子

(神経内科)

赫 寛雄

医師・学生・研究者支援センターでは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受けて、平成25年度から平成28年度まで、本学の取組課題の解決と目標達成に向けて事業を推進してきた。実施した取組の成果を総括するとともに、現状分析を行い、さらに今後どのように継続、発展させていくのか考察をしてみたい。

■実施経費：3年間の補助金総額 80.3百万円

■課題の解決

1. 支援室の体制

女性研究者支援に特化した部門を加え、組織再編成した「医師・学生・研究者支援センター」で取組

を推進する体制を確立した。

2. 具体的な取組

研究環境・勤務形態の改善を図るため、相談窓口の設置、研究者同士の交流を図るための場の提供、ホームページ等による啓発活動を行いながら、育児や介護等ライフイベント期間の女性研究者をサポートする研究補助者配置事業、保育環境の整備、ファミリーサポート事業等28事業を展開した。

■達成目標

- ・取組終了時における女性研究者の採用人数48名(採用割合33.3%)
達成率191.7%(101.2%)
- ・取組終了時における女性研究者の在籍者数309名(在籍割合26.3%)
達成率97.4%(97.3%)

女性研究者雇用促進策、上位職内部昇任促進策を策定し、5名の上位職女性教員採用と17名の上位職内部昇任を実現した。在籍目標はわずかに到達しなかったが、上位職の准教授・講師相当の目標在職者数49名(在職割合18.6%)については、達成率は10.2%(101.6%)となり、今後、教授の在職者数、在籍割合を上げる準備になったと考えられる。

■今後の取組

女性活躍推進法における本学の行動計画の目標である平成32年3月末時点での女性教授在籍者割合15.7%(平成28年3月末現在12.6%)の目標達成に向けて、女性研究者研究活動を支援するとともに、中・長期計画で掲げているダイバーシティの実現に向けて、全学的な取り組み組織の体制づくりと、男性を含めた働き方改革を進めるよう提言する。

P2-37.

Gender Difference in Social Participation and Risk of Psychological Distress Among Community-dwelling Older Adults in Japan : A Five-year Cohort Study

(大学院修士課程2年公衆衛生学)

○天笠 志保

(公衆衛生学)

福島 教照、菊池 宏幸、高宮 朋子

小田切優子、井上 茂

【Aim】 We examined whether different forms of social